

【あなたの飲酒習慣について おたずねします。】

問5 これまでに、一回でも飲酒したことがありますか？

(ない方は「1」を ある方は 飲酒したことがある機会すへてに○をして下さい。)

×この調査で言う飲酒には 梅酒など アルコールが入ったものすへてを含みます。
また「飲む」とは「なめる」「口をつける」も含めます。

1 一度も飲酒したことがない	7 家での食事や団らんで
2 冠婚葬祭時(正月や各種儀式も含める)	8 外での家族との食事や団らんで
3 仕事や商売上の必要で	10 仕事や職場でいやなことがあったとき
4 上司とのつきあいで	11 家の中でおもしろくないことがあったとき
5 友人 同僚とのつきあいで	12 寝る前に
6 その他のつきあいで	13 その他(具体的に)

問6 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてアルコールを口にしたのはいつ頃ですか？(○は1つ)

1 これまでに一度も飲酒したことがない	4 中学校時代	7 20歳以降
2 小学校以前	5 中卒後～17歳	
3 小学校時代	6 18歳～19歳	

問7 あなたが、それなりに飲酒をするようになったのはいつ頃からですか？(○は1つ)

×「それなりに飲酒をする」とは 一回の飲酒の量にかかわらず「月に1回以上 飲酒すること」を指します。

1 これまでに一度も飲酒したことがない	4 小学校時代	7 18歳～19歳
2 それなりに飲酒するまでには至ったことがない	5 中学校時代	8 20歳以降
3 小学校以前	6 中卒後～17歳	

問8 この一年間に、一回でも飲酒したことがありますか？

(ない方は「1」を ある方は 飲酒したことがある機会すへてに○をして下さい。)

1 一度も飲酒したことがない	7 家での食事や団らんで
2 冠婚葬祭時	8 外での家族との食事や団らんで
3 仕事や商売上の必要で	10 仕事や職場でいやなことがあったとき
4 上司とのつきあいで	11 家の中でおもしろくないことがあったとき
5 友人 同僚とのつきあいで	12 寝る前に
6 その他のつきあいで	13 その他(具体的に)

問9 この一年間の飲酒頻度は、以下のどれに該当しますか？(○は1つ)

1 この1年間で、一度も飲んでいない
2 この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内)
3 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6～11回)
4 月に1～2回程度、飲んだ(年間約12～24回)
5 月に数回程度、飲んだ(年間約25～51回)
6 週に1～2回程度、飲んでいる
7 週に3～6回程度、飲んでいる
8 ほとんど毎日、飲んでいる

問10 現在のあなたは、禁酒に関してとれに該当しますか？ (○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | そもそも、これまでに一度も飲酒したことかない または 禁酒を考えたことがない |
| 2 | 禁酒を考えたことはあるか 実行したことがない |
| 3 | 禁酒を試みたが、現在、禁酒に至っていない |
| 4 | 禁酒し 今も禁酒しているが、未だ1年は経っていない (初めての禁酒挑戦) |
| 5 | 禁酒し 今も禁酒しているが、未だ1年は経っていない (禁酒への再挑戦中) |
| 6 | 禁酒し 既に1年以上禁酒を続けている |

問11 禁酒しようかと考えた大きな理由は何ですか？ (○はいくつでもけっこうです)
(禁酒を考えたことがない方や 飲酒経験のない方は1に○をしてください。)

- | | |
|---|---|
| 1 | 禁酒を考えたことがない または、飲酒経験がない |
| 2 | 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから |
| 3 | 健康上の不調を感じたから |
| 4 | 問題(対人関係、社会生活上)を起こしたことはないが、自分の飲酒にその可能性を感じたから |
| 5 | 飲酒で問題(対人関係 社会生活上)を起こしたから |
| 6 | その他(具体的に) |

【あなたの喫煙習慣について、おたずねします。】

問12 これまでに、一回でも (いたづらを含めて)、喫煙したことがありますか？ (○は1つ)

- | | | | |
|---|----|---|----|
| 1 | ない | 2 | ある |
|---|----|---|----|

問13 あなたが、「いたづら」を含めて、初めてたばこを吸ったのはいつ頃ですか？ (○は1つ)

- | | | | | | |
|---|-------------------|---|---------|---|-------|
| 1 | これまでに一度も喫煙したことかない | 4 | 中学校時代 | 7 | 20歳以降 |
| 2 | 小学校以前 | 5 | 中卒後～17歳 | | |
| 3 | 小学校時代 | 6 | 18歳～19歳 | | |

問14 あなたが、それなりに喫煙するようになったのはいつ頃からですか？ (○は1つ)

×「それなりに喫煙をする」とは 1回の喫煙の量にかかわらず 「週1回以上 喫煙すること」を指します。

- | | | | | | |
|---|-----------------------|---|---------|---|---------|
| 1 | これまでに一度も喫煙したことかない | 4 | 小学校時代 | 7 | 18歳～19歳 |
| 2 | それなりに喫煙するまでには至ったことかない | 5 | 中学校時代 | 8 | 20歳以降 |
| 3 | 小学校以前 | 6 | 中卒後～17歳 | | |

問15 この一年間の喫煙頻度は、以下のとれに該当しますか？ (○は1つ)

- | | |
|----|---------------------------|
| 1 | この1年間で、一回も喫煙していない |
| 2 | この1年間で、数回喫煙した (年間5回以内) |
| 3 | 2ヶ月に1回程度、喫煙した (年間約6～11回) |
| 4 | 月に1～2回程度、喫煙した (年間約12～24回) |
| 5 | 月に数回程度、喫煙した (年間約25～51回) |
| 6 | 週に1～2回程度 喫煙している |
| 7 | 週に3～6回程度、喫煙している |
| 8 | ほとんど毎日、喫煙している (1日に1～10本) |
| 10 | ほとんど毎日 喫煙している (1日に11～20本) |
| 11 | ほとんど毎日、喫煙している (1日に21本以上) |
| 12 | ほとんど毎日、喫煙している (パイプたばこ) |

問16 現在のあなたは、禁煙に関してとれに該当しますか？（○は1つ）

- | | |
|---|--|
| 1 | そもそも、これまでに一度も喫煙したことがない または 禁煙を考えたことがない |
| 2 | 禁煙を考えたことはあるが、実行したことがない |
| 3 | 禁煙を試みたが 現在、禁煙に至っていない |
| 4 | 禁煙し、今も禁煙しているが、未だ1年は経っていない（初めての禁煙挑戦） |
| 5 | 禁煙し、今も禁煙しているが、未だ1年は経っていない（禁煙への再挑戦中） |
| 6 | 禁煙し、既に1年以上禁煙を続けている |

問17 禁煙しようかと考えた大きな理由は何ですか？（○はいくつでもけっこうです）

（禁煙を考えたことがない方や 喫煙経験のない方は1に○をしてください。）

- | | |
|---|---|
| 1 | 禁煙を考えたことがない または、喫煙経験がない |
| 2 | 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから |
| 3 | 健康上の不調を感じたから |
| 4 | 人から禁煙を勧められたわけではないが、喫煙者は「白い目」で見られるようになってきたから |
| 5 | 人から禁煙を勧められたから |
| 6 | 家族や他者の健康への影響を考えて |
| 7 | その他(具体的に) |

【鎮痛薬、精神安定薬（抗不安薬）、睡眠薬についておたずねします。】

問18 あなたの家庭に常備している薬に○をつけて下さい。（○はいくつでもけっこうです）

- | | | | | | | | |
|---|-------|----|-------|----|------|----|------------|
| 1 | 特にない | 6 | 糖尿病薬 | 12 | 鎮痛薬 | 17 | セットの置き薬 |
| 2 | 風邪薬 | 7 | 精神安定薬 | 13 | 抗生物質 | 18 | その他（具体的に) |
| 3 | 胃腸薬 | 8 | 湿布薬 | 14 | 便秘薬 | | |
| 4 | ビタミン剤 | 10 | 強精強肝薬 | 15 | 目薬 | | |
| 5 | 高血圧薬 | 11 | 睡眠薬 | 16 | 鼻炎薬 | | |

問19 次の薬のうち、この一年間に一回でも使ったことのある薬があったら、○をつけて下さい。

（○はいくつでもけっこうです）（この調査での「薬」には 医療機関からの薬も市販薬も含まれます）

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|----|------|----|------------|
| 1 | 特にない | 5 | 高血圧薬 | 10 | 抗生物質 | 13 | 鼻炎薬 |
| 2 | 風邪薬 | 6 | 糖尿病薬 | 11 | 便秘薬 | 14 | セットの置き薬 |
| 3 | 胃腸薬 | 7 | 湿布薬 | 12 | 目薬 | 15 | その他（具体的に) |
| 4 | ビタミン剤 | 8 | 強精強肝薬 | | | | |

問20 あなたは、この一年間で、平均すると鎮痛薬（頭痛薬、歯痛止め 生理痛止め、も含まれます）をどのくらいの頻度で使用しましたか？（○は1つ）

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-----------------------|
| 1 | 一度も飲んでいない | 5 | 月に数回程度、飲んだ（年間約25～51回） |
| 2 | この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内） | 6 | 週に1～2回程度、飲んでいる |
| 3 | 2ヶ月に1回程度 飲んだ（年間約6～11回） | 7 | 週に3～6回程度、飲んでいる |
| 4 | 月に1～2回程度、飲んだ（年間約12～24回） | 8 | ほとんど毎日、飲んでいる |

問21 この一年間で、鎮痛薬は、どこから入手しましたか？（○はいくつでもけっこうです）

- | | | | | | |
|---|---------|---|---------|---|------------|
| 1 | 入手していない | 4 | 医院 病院から | 7 | 愛人 恋人から |
| 2 | 常備薬から | 5 | 薬局 薬店から | 8 | その他(具体的に) |
| 3 | 家族から | 6 | 友人 知人から | | |

問22 鎮痛薬の、この一年間での使用理由は、以下のどれですか？（○はいくつでもけっこうです）

1 使っていない	5 生理痛	10 遊び（快感）目的で
2 頭痛	6 胃痛	11 その他（具体的に
3 歯痛	7 肩こり	）
4 腰痛	8 その他の痛みのため	

問23 鎮痛薬の中には、依存（やめようと思っても 簡単にはやめられなくなる状態）を作り得るものもありますか、そのような鎮痛薬も含めて、鎮痛薬の使用についての、あなたの実情 心情は次のとれに該当しますか？（○は1つ）

1 使う必要がないので、考えたことかない
2 必要な時には、心配せずに 使う
3 必要な時には 心配もあるが、とちらかというを使う
4 必要な時でも、心配だから、とちらかというと使わない
5 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない

問24 あなたは、この一年間で、平均すると精神安定薬（抗不安薬）をどのくらいの頻度で使用しましたか？（○は1つ）

1 一度も飲んでいない	5 月に数回程度、飲んだ（年間約25～51回）
2 この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内）	6 週に1～2回程度、飲んでいる
3 2ヶ月に1回程度、飲んだ（年間約6～11回）	7 週に3～6回程度、飲んでいる
4 月に1～2回程度、飲んだ（年間約12～24回）	8 ほとんど毎日、飲んでいる

問25 この一年間に、精神安定薬（抗不安薬）は、どこから入手しましたか？

（○はいくつでもけっこうです）

1 入手していない	4 医院 病院から	7 愛人 恋人から
2 常備薬から	5 薬局 薬店から	8 その他（具体的に
3 家族から	6 友人 知人から	）

問26 精神安定薬（抗不安薬）の、この一年間での使用理由は以下のとれですか？

（○はいくつでもけっこうです）

1 使っていない	4 ストレス軽減のため	7 その他（具体的に
2 不眠改善のため	5 高血圧の治療のため	）
3 不安解消のため	6 遊び（快感）目的で	

問27 精神安定薬（抗不安薬）の中には、依存を作り得るものもありますか、そのような精神安定薬（抗不安薬）も含めて、精神安定薬（抗不安薬）の使用についての、あなたの実情 心情は、次のとれに該当しますか？（○は1つ）

1 使う必要がないので 考えたことがない
2 必要な時には 心配せずに 使う
3 必要な時には、心配もあるが、とちらかというを使う
4 必要な時でも、心配だから、とちらかというと使わない
5 必要な時でも 心配だから とにかく使わない

問28 あなたは、この一年間で、平均すると睡眠薬をどのくらいの頻度で使用しましたか？ (○は1つ)

1 一度も飲んでいない	5 月に数回程度、飲んだ (年間約25~51回)
2 この1年間で、数回飲んだ (年間5回以内)	6 週に1~2回程度、飲んでいる
3 2ヶ月に1回程度、飲んだ (年間約6~11回)	7 週に3~6回程度、飲んでいる
4 月に1~2回程度、飲んだ (年間約12~24回)	8 ほとんど毎日 飲んでいる

問29 この一年間に、睡眠薬はどこから入手しましたか？ (○はいくつでもけっこうです)

1 入手していない	4 医院 病院から	7 愛人 恋人から
2 常備薬から	5 薬局 薬店から	8 その他(具体的に)
3 家族から	6 友人 知人から	

問30 睡眠薬の、この一年間での使用理由は以下のどれですか？ (○はいくつでもけっこうです)

1 使っていない	4 ストレス軽減のため	7 その他(具体的に)
2 不眠改善のため	5 高血圧の治療のため	
3 不安解消のため	6 遊び(快感)目的で	

問31 睡眠薬の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような睡眠薬も含めて、睡眠薬の使用についての、あなたの実情 心情は、次のどれに該当しますか？ (○は1つ)

1 使う必要がないので、考えたことがない
2 必要な時には、心配せずに、使う
3 必要な時には 心配もあるか、とちらかというを使う
4 必要な時でも、心配だから、とちらかというを使わない
5 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない

【薬物乱用 依存についておたずねします。】

問32 以下の薬物は、すべて依存(止めようと思っても簡単には止められない状態)を作り得る薬物です。あなたが聞いたことのある薬物があったら、○をつけて下さい。(○はいくつでもけっこうです)

1 大麻	7 LSD	13 スピード	19 コカイン
2 モルヒネ	8 有機溶剤	14 麻薬	20 クラック
3 マリファナ	10 アンソット	15 ヒロポン	21 覚せい剤
4 トルエン	11 ンナー	16 ヘロイン	22 エクスタナー
5 ハンノシ	12 エス	17 MDMA	23 ンヤブ
6 マジック マッシュルーム	18 エノクス	24 すべて知らない	

問33 薬物乱用を繰り返すと 依存状態になることを知っていますか？ (○は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問34 「シンナー遊び」で死亡すること(急性中毒死)があるのを知っていますか？ (○は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問35 「シンナー遊び」を繰り返すと、何も無いのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり（幻聴）、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込んだり（妄想）する状態（精神病状態）になることがあるのを知っていますか？（○は1つ）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問36 「シンナー遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後、疲れ ストレス 飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること（フラッシュバック）があるのを知っていますか？（○は1つ）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問37 「シンナー遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになったり、とんな仕事に就いても、長続きしなくなる（無動機症候群）を知っていますか？（○は1つ）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問38 「シンナー遊び」をする人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

1 以前より増えている	2 変わらない	3 以前より減っている	4 わからない
-------------	---------	-------------	---------

問39 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、「シンナー遊び」を一回でも行ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？

（身近でなくても 実際目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は（ ）内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。）

1 いない（知らない）	2 いる →（ ）人
-------------	------------

問40 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間に「シンナー遊び」を一回でも行ったことのある人を、何人知っていますか？

（身近でなくても 実際目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は（ ）内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。）

1 いない（知らない）	2 いる →（ ）人
-------------	------------

問41 あなたは、これまでに、「シンナー遊び」に一回でも誘われたことがありますか？

（○は1の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ）

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問42 あなたは、これまでに一回でも、「シンナー遊び」を経験したことがありますか？

（○は1の場合は1つ、それ以外の場合には 1つまたは2つ）

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問43 あなたは、大麻を吸っている人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

（マリファナ ハンソノもすべて大麻です）

1 以前より増えている	2 変わらない	3 以前より減っている	4 わからない
-------------	---------	-------------	---------

問44 あなたは大麻を吸うと、上記の問35～問37と同じ精神病状態、フラッシュバック、無動機症候群になることがあるのを知っていますか？（○は1つ）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問45 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、大麻を一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？

(身近でなくても 実際に目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない) 2 いる → () 人

問46 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間に大麻を一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？

(身近でなくても 実際に目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない) 2 いる → () 人

問47 あなたは、これまでに、大麻使用に一回でも誘われたことがありますか？

(○は1の場合は1つ それ以外の場合には、1つまたは2つ)

1 ない 2 この1年間より前にあった 3 この1年間にあった

問48 あなたは これまでに一回でも 大麻を吸ったことがありますか？

(○は1の場合は1つ それ以外の場合には、1つまたは2つ)

1 ない 2 この1年間より前にあった 3 この1年間にあった

問49 あなたは、覚せい剤を使っている人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)
(ヒロポン、ノブ、エス、スピートも覚せい剤です)

1 以前より増えている 2 変わらない 3 以前より減っている 4 わからない

問50 覚せい剤を使うと、上記の質問35と同じ精神病状態になりやすく、また質問36のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？ (○は1つ)

1 知っている 2 知らない

問51 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、覚せい剤を一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？

(身近でなくても 実際に目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない) 2 いる → () 人

問52 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間に覚せい剤を一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？

(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない) 2 いる → () 人

問53 あなたは、これまでに、覚せい剤使用に一回でも誘われたことがありますか？

(○は1の場合は1つ それ以外の場合には、1つまたは2つ)

1 ない 2 この1年間より前にあった 3 この1年間にあった

問54 あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤を使用したことがありますか？

(○は1の場合は1つ それ以外の場合には、1つまたは2つ)

1 ない 2 この1年間より前にあった 3 この1年間にあった

問55 あなたは ヘロインを使用している人の数について どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1 以前より増えている 2 変わらない 3 以前より減っている 4 わからない

問56 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、ヘロインを一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？

(身近でなくても 実際目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない)	2 いる → () 人
--------------	--------------

問57 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間にヘロインを一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？

(身近でなくても 実際目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない)	2 いる → () 人
--------------	--------------

問58 あなたは、これまでに、ヘロイン使用に一回でも誘われたことがありますか？

(○は1 の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ)

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問59 あなたは、これまでに一回でも、ヘロインを使用したことがありますか？

(○は1 の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ)

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問60 あなたは コカインを使用している人の数について どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)
(クラックもコカインです)

1 以前より増えている	2 変わらない	3 以前より減っている	4 わからない
-------------	---------	-------------	---------

問61 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、コカインを一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？

(身近でなくても 実際目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない)	2 いる → () 人
--------------	--------------

問62 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間にコカインを一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？

(身近でなくても 実際目撃した場合は人数に含めてください。2 「いる」を選んだ場合は ()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない)	2 いる → () 人
--------------	--------------

問63 あなたは、これまでに、コカイン使用に一回でも誘われたことがありますか？

(○は1 の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ)

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問64 あなたは、これまでに一回でも、コカインを使用したことがありますか？

(○は1 の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ)

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問65 あなたは、MDMAを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？

(エクスタシー エノクスもMDMAです)

(○は1つ)

1 以前より増えている	2 変わらない	3 以前より減っている	4 わからない
-------------	---------	-------------	---------

問66 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、MDMAを一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？

(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2「いる」を選んだ場合は()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない)	2 いる → () 人
--------------	--------------

問67 あなたは、国内で、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間にMDMAを一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？

(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2「いる」を選んだ場合は()内にその人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1 いない (知らない)	2 いる → () 人
--------------	--------------

問68 あなたは、これまでに、MDMA使用に一回でも誘われたことがありますか？

(○は1の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ)

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問69 あなたは、これまでに一回でも、MDMAを使ったことがありますか？

(○は1の場合は1つ それ以外の場合には 1つまたは2つ)

1 ない	2 この1年間より前にあった	3 この1年間にあった
------	----------------	-------------

問70 あなたが「シンナー遊び」のためにシンナーなどの有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいことですか？ (○は1つ)

1 絶対不可能だ	3 少々苦勞するか、なんとか手に入る
2 ほとんど不可能だ	4 簡単に手に入る

問71 あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1 絶対不可能だ	3 少々苦勞するか、なんとか手に入る
2 ほとんど不可能だ	4 簡単に手に入る

問72 あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1 絶対不可能だ	3 少々苦勞するか、なんとか手に入る
2 ほとんど不可能だ	4 簡単に手に入る

問73 あなたがヘロインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1 絶対不可能だ	3 少々苦勞するが、なんとか手に入る
2 ほとんど不可能だ	4 簡単に手に入る

問74 あなたがコカインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1 絶対不可能だ	3 少々苦勞するか、なんとか手に入る
2 ほとんど不可能だ	4 簡単に手に入る

問75 あなたがMDMAを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1 絶対不可能だ	3 少々苦勞するか、なんとか手に入る
2 ほとんど不可能だ	4 簡単に手に入る

問76 大麻を吸うことは法律で禁止されていますが、あなたは大麻を吸うことについて、どう思いますか？（○は1つ）

- | |
|--|
| 1 法律で云々言う以前に、そもそも、すへきてはないと思う |
| 2 法律で禁止されているから、すへきてはないと思う |
| 3 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う |
| 4 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う |
| 5 大麻による害を知らないから、判断できない |

問77 覚せい剤を使用することは法律で禁止されていますが、あなたは覚せい剤を使用することをどう思いますか？（○は1つ）

- | |
|--|
| 1 法律で云々言う以前に、そもそも、すへきてはないと思う |
| 2 法律で禁止されているから、すへきてはないと思う |
| 3 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う |
| 4 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う |
| 5 覚せい剤による害を知らないから、判断できない |

問78 あなたは、マジック マッシュルームが毒キノコであることを知っていましたか？（○は1つ）

- | | |
|----------|---------|
| 1 知らなかった | 2 知っていた |
|----------|---------|

問79 あなたが、この一年間に受診したことがある診療科に○をして下さい。
（○はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|-------------|---------|---------|---------------|
| 1 とも受診していない | 5 外科 | 10 泌尿器科 | 14 耳鼻咽喉科 |
| 2 内科 | 6 整形外科 | 11 産婦人科 | 15 心療内科 |
| 3 神経科 精神科 | 7 皮膚科 | 12 眼科 | 16 その他(具体的に) |
| 4 神経内科 | 8 脳神経外科 | 13 歯科 | |

問80 あなたが、これまでに、何らかの薬物（医薬品も含めて）の使用が原因で受診したことがある診療科に○をして下さい。

（○はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|-------------|---------|---------|---------------|
| 1 とも受診していない | 5 外科 | 10 泌尿器科 | 14 耳鼻咽喉科 |
| 2 内科 | 6 整形外科 | 11 産婦人科 | 15 心療内科 |
| 3 神経科 精神科 | 7 皮膚科 | 12 眼科 | 16 その他(具体的に) |
| 4 神経内科 | 8 脳神経外科 | 13 歯科 | |

ご協力ありがとうございました。

なお、この調査についての結果は 来年の7月頃に公表します。

結果をお知りになりたい方は、ハガキにあなた様の住所、氏名をご記入になり、下記の「結果請求用紙」を点線に沿って切り取り、ハガキに貼付の上、2003年11月末日までに、下記住所（点線に沿って切り取り、ハガキに添付して下さい）までご請求下さい。来年の7月頃に郵送させていただきます。

（結果は、調査対象全員について 統計的にまとめられたものであり、個人について論じたものではありません。ただし、郵送の必要上、あなた様か本調査の対象の一人であったことか、当研究部にはわかりますが、当研究部では、あなた様自身の記載内容を特定することはできませんし、あなた様が本調査の対象の一人であったことを漏らすことは、一切ありません。）

注 下記を切り取る際は、裏面の回答が切り取られないよう、点線に沿ってお切り下さい。

結果請求用紙	結果請求先
住民調査03の	〒272-0827 千葉県市川市国府台 1-7-3
結果を	国立精神 神経センター 精神保健研究所
請求します	薬物依存研究部 住民調査 担当者 宛

第5版-2003

分 担 研 究 報 告 書
(1-2)

全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

分担研究者 尾崎 茂 国立精神 神経センター精神保健研究所,薬物依存研究部室長
研究協力者 和田 清 国立精神 神経センター精神保健研究所,薬物依存研究部長
大槻直美 国立精神 神経センター精神保健研究所,薬物依存研究部研究助手

研究要旨 1987年度以降施行されてきた「薬物関連精神疾患の実態調査」について、主に共通した調査項目に注目して経時的分析を行った。各年度の調査において回答率は概ね50%を超え、病床数からも同程度にカバーしており、全数調査として意義のある調査か施行されていると考えられた。覚せい剤と有機溶剤が精神科医療の現場においても主たる乱用薬物であり、覚せい剤は主たる使用薬物としては50～60%と最も高い割合を示し、漸増傾向にあるとともに、使用歴を有する薬物としても最も高い割合を示した。有機溶剤は、主たる使用薬物としては20%前後と減少傾向にあるが、初回使用薬物としては40～50%と覚せい剤よりも最も高い割合を示した。若年層における薬物乱用へのgatewayとしての有機溶剤の役割は今なお重要であり、予防啓発 早期介入に関する対策の一層の充実が必要と考えられた。大麻は、主たる使用薬物としては1～2%を占めるに過ぎないが、使用歴を有する薬物としては20%を超えるなど、最近の調査において著明な増加を示しており、一般社会での乱用の拡大を反映していると考えられた。各薬物症例群において、使用期間が1年未満の「初期乱用者」の割合は5%前後で、顕著な変化はみられず概ね横ばいであったが、覚せい剤症例ではやや減少傾向がみられた。「長期乱用群（薬物使用開始後5年以上経過）」は40～80%を占め、覚せい剤、有機溶剤ではやや増加傾向がみられた。本調査を継続することは、精神医療の現場における薬物関連問題の実態把握とともに、予防啓発および精神保健上の対策を検討する際の重要な情報提供をもたらすと考えられた。

A 研究目的

本調査研究は、全国のすべての有床精神科医療施設における薬物関連精神疾患患者を対象とし、薬物乱用・依存に関する多面的疫学研究のひとつとして継続的に行われてきたもので、1987年以来ほぼ隔年で実施され、2002年までに9回の調査を重ねてきた^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10)}。

今年度は調査の実施しない年度にあたるため、すでに開始後約15年を経過した本調査研究の結果から、精神医療の現場における薬物関連精神疾患の特徴について、その全体的傾向を経時的に検討することを目的とした。また、これまでのデータを関係者のみならず一般社会により幅広く還元するために、過去の報告書を電子化して、インターネット等における閲覧を可能にする準備を行った。これによって本調査研究データへのアクセスが容易になり、国民の間で広く情報を共有することができるとともに、調査研究活動の一般社会への還元を促進すると考えられる。

B 研究方法

本調査の対象、方法は下記のようなものである。

- ・ 調査対象医療施設 全国の精神科病床を有する全医療機関。
調査期間 2ヶ月間（9月～10月）。
調査対象患者 調査期間内に外来または入院で診療を受けた、アルコールを除く精神作用物質を主な使用薬物とする薬物関連精神疾患患者。
調査方法 質問用紙を郵送し、担当医により記載。

調査項目については、調査年度によって質問項目の設定に多少の異同があるため、調査結果の経時的分析については、各年度の調査において共通の調査項目を中心として次のような点について検討を行った。

- ① 回答状況の推移
- ② 使用薬物別にみた症例(%)の推移
- ③ 性 年齢の分布

- ④ 薬物使用開始年齢
- ⑤ 薬物使用期間
- ⑥ 喫煙 飲酒状況
- ⑦ 薬物初回使用の動機
- ⑧ 薬物初回使用の契機となった人物
- ⑨ 薬物の主な入手経路
- ⑩ 覚せい剤初回使用方法
- ⑪ 主な状態像

また、上記のような共通項目のほか、年度ごとに下記のような関心領域を設定して調査を施行してきた。

1987 ¹⁾	乱用継続の理由 乱用による社会的障害度、問題行動
1989 ²⁾³⁾	・性格特性 (Y-G12項目) 扶養者の特性 (養育態度、職歴、逮捕 矯正歴、薬物使用歴)
1991 ⁴⁾	・覚せい剤、有機溶剤による症状遷延 再燃例と乱用期間 ・転帰
1993 ⁵⁾	・覚せい剤および有機溶剤による後遺症候群 ・来院時・治療中の主症状 治療終了時 調査時の状態改善度
1994 ⁶⁾	・来院時 治療中の主症状 最終診断時 調査時の状態
1996 ⁷⁾	覚せい剤関連精神障害の診断 (厚生省「専門家会議 (1985)」による類型分類)
1998 ⁸⁾	ICD-10による診断分類 精神病性障害の頻度と発症年齢
2000 ⁹⁾	・覚せい剤精神病の持続期間 (付 ICD-10診断分類のアルゴリズム)
2002 ¹⁰⁾	精神病性障害の診断 (6ヶ月以上をわたり症状の持続する長期持続例を含む) 依存症候群の診断 (ICD-10、乱用～依存までの期間、SDS (Severity of Dependence Scale) を用いた目録式評価尺度) 先行 併存する精神医学的障害、生活史的問題 (摂食障害、気分障害、発達障害、虐待の既往など) ・利用された治療プログラム

これらの詳細については、各年度の報告書を参照されたい。

C 結果

(1) 回答状況の推移 (表1)

調査年度別の回答状況をみると、回答率は概ね50%前後で、全調査を通しての平均は49.3%であった。このうち「該当症例あり」と回答した施設は平均267施設と全体の約1/6に過ぎず、「該当症例なし」と回答した施設は、回答した施設全体の2/3を占めていた。

報告された症例数は全体で平均900例を超え、1施設あたりでは平均3.5例であった。最近の調査では、「症例あり」施設数が減少する一方で、「該当症例なし」施設数、また一施設あたりの回答症例数はやや増加傾向にある。

なお、2002年度調査¹⁰⁾で回答の得られた施設の精神科病床総数は189,341床で、全国の精神科病床の53%を占めていた。

(2) 施設種別にみた回答状況 (表2)

回答された症例数は、民間病院が全体の60%前後、国立病院、自治体立病院がそれぞれ15～20%を占めている。この中で、自治体立病院から報告された症例の割合が増加傾向にある。施設種別ごとの回答率は50～70%前後と概ね高い割合がみられている。該当する症例のあった施設の割合は国立病院、自治体立病院で50～60%と比較的高かった。2002年度の調査¹⁰⁾では、施設あたりの報告症例数は国立病院が10.8例と最も高く、自治体立病院が6.6例とこれに次いでいた。

(3) 使用薬物別にみた症例の推移

主たる使用薬物別にみた症例の割合では、1993年度調査の前後から、覚せい剤症例の割合の増加と有機溶剤症例の割合の低下が顕著になってきている (表3)。睡眠薬、抗不安薬症例がこれに次いでいるか、これらを含め、覚せい剤、有機溶剤以外の症例の割合は10%以下である。

主たる使用薬物が臨床的にひとつに決定できなかった「多剤使用症例」の存在も決して少なくなると考えられることから、1996年度は「その他多剤」として集計を開始した⁷⁾。1998年以降は、複数選択された主たる使用薬物がいずれも医薬品である症例を「多剤 (医薬品)」、複数の薬物の中に

規制薬物が含まれる場合は「多剤（規制薬物）」として分類した。これらの多剤使用症例の内訳を表4に示す。これらの症例が症例全体に占める割合は1998年以降減少傾向がみられている。

初回使用薬物をみると、報告された全症例のうち40～50%が有機溶剤としており、覚せい剤を抜いて最も高い割合であった（表5）。

また、「使用歴を有する薬物」としては、同様に報告された症例のうちほぼ60%以上の症例が覚せい剤としており、有機溶剤より高い割合を示した（表6）。

（4）大麻使用症例の推移（表7）

大麻乱用の一層の拡大が懸念される現状から鑑み、大麻使用症例についてあらためて抽出したところ、大麻を「主たる使用薬物」とする症例の割合は報告症例全体の1～2%前後と低いか、「これまでに大麻の使用歴を有する症例」の割合は1996年¹⁹⁾、2002年調査¹⁰⁾でそれぞれ前年に比較してほぼ倍増するなど、著しい増加傾向がみられた。

（5）性比および年齢（表8）

覚せい剤、有機溶剤等の規制薬物を主たる使用薬物とする症例においては、男性が80%前後と優位で、30歳代を中心にして比較的幅広い年齢分布がみられた。

一方、睡眠薬、抗不安薬等の医薬品の症例では、男女比が接近し、平均年齢も40歳前後と高くなっている。

また、鎮咳薬症例については、他の医薬品症例と異なり、性比では男性優位で、平均年齢も30歳前後と、規制薬物症例の特徴に近い。

（なお、1989年度調査¹¹⁾における鎮痛薬症例の平均年齢が他の年度に比較して極端に低くなっているか、10歳以下の症例が複数例含まれていたため、これらの乱用・依存状況の詳細は不明であるため、参考値にととめたい。）

（6）初回使用年齢（表9）

初回使用年齢では、規制薬物および鎮咳薬症例は20～30歳前後であったのに対して、医薬品症例では30～40歳前後と、二分化していた。有機溶剤症例では全調査において16歳前後ともっとも低年齢で薬物使用が始まっていた。最近の調査では、大麻症例がこれに次いで初回使用年齢が低い傾向

を示している。

（7）薬物使用期間（表10、11）

主たる薬物の使用期間についての男女別割合を表10に、男女合計の割合を表11に示す。「薬物使用期間」を厳密に評価することは難しく、ここでは便宜的に「調査時年齢－初回使用年齢」で求めた値を用いている。

使用期間が1年未満である「初期乱用者」の割合は概ね5%前後で、顕著な変化はみられず概ね横ばいであった。覚せい剤症例では、大きな差はないものの、女性の初期乱用者の割合が男性より高い傾向がみられたか、全体としてはやや減少傾向がみられている。有機溶剤でも、女性において初期乱用者の割合がより高い傾向がみられた。

一方、薬物使用開始後5年以上が経過した「長期乱用群」は全体の40～80%を占め、覚せい剤、有機溶剤や鎮咳薬症例ではとくに70～80%と高い割合を示していた。性別にみると、覚せい剤、有機溶剤症例では男性の割合が高い傾向がみられた。

（8）喫煙状況（表12）

「非喫煙者」と「1日21本以上の喫煙者」の性別にみた割合を表12に示す。（ただし、2002年度は、非喫煙者のデータのみ。）薬物によってばらつきがあるか、全般的にみると非喫煙者より21本以上/日の喫煙者の割合が高い。とくに規制薬物症例では非喫煙者の割合が低い傾向がみられる。21本以上/日の喫煙者の割合は、20～30%前後ないしはそれ以上でやや男性の割合が高い傾向がみられた。

（9）飲酒状況（表13）

「乱用的飲酒」（“健康及び社会生活に影響を及ぼすような飲酒者”）の既往のある症例の割合について、性別にみた割合を表13に示す。全体的にみると男性の割合が高い傾向があるか、最近の調査では男女比は接近する傾向もみられる。有機溶剤、鎮咳薬症例ではむしろ女性の方が高い割合を示すことが多かった。覚せい剤症例においても男女比が接近する傾向がみられた。睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬症例では30～50%の割合を示すことが多い。

(10) 薬物初回使用の動機 (表14~16)

薬物初回使用の動機をみると、覚せい剤症例では男女とも「刺激を求めて」「好奇心」あるいは「快感を求めて」等の高い割合が目立った(表14)。「断り切れずに」「性的効果を求めて」では女性の割合が高い傾向がみられた。その他、「覚醒効果」「疲労の軽減」などの覚せい剤の薬理効果自体が初回使用の動機であった割合が10%前後にみられた。

有機溶剤症例でも同様に男女とも「刺激を求めて」「好奇心」の割合が高かった(表15)。次いで、「快感を求めて」「やけになって」「ストレス解消」「不安の軽減」などが10~30%程度にみられた。

鎮咳薬症例では、本来の薬理効果である「咳嗽の軽減」を初回使用の動機とする割合は低く、「好奇心」「快感を求めて」「ストレス解消」や「不安の解消」を初回使用の動機とする症例の割合が30~50%前後と高かった(表16)。

その他、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬などの医薬品症例では、それぞれ「不眠の軽減」、「不安の軽減」、「疼痛の軽減」といった本来の薬理効果を求めて使用を始めた症例が50~70%にみられた。

(11) 初回使用の契機となった人物 (表17, 18)

覚せい剤症例の男性では、「同性の友人」の割合が40~60%と高く、次いで「知人」「密売人」などであった(表17)。一方、女性では「異性の友人」「恋人・友人」「同棲中の相手」などの異性パートナーの割合が高いのが特徴的であった。

有機溶剤症例では、男女とも「同性の友人」の割合が60~80%と最も高く、男性でより高い傾向がみられた(表18)。「異性の友人」および「恋人・愛人」といった異性パートナーの関与は、覚せい剤症例同様に女性においてより高い傾向がみられた。

睡眠薬、抗不安薬症例では、40~50%前後か「医師」の処方契機となっており、20~30%の症例では「なし」、すなわち乱用開始から単独での使用とみられた。

(12) 薬物の入手経路 (表19~21)

覚せい剤症例では、全体として「友人」「知人」「密売人」の割合が高い傾向があり、女性においては「恋人・愛人」と異性パートナーの割合が高いが目立った(表19)。一方で、「最近1年間使

用なし」か男女とも40%前後にみられた。

有機溶剤症例では、「友人」が最も高い割合を示し、やや女性に高い傾向がみられた(表20)。「最近1年間使用なし」は男性でやや割合が高く、「恋人・友人」は女性に高い傾向がみられた。

睡眠薬、抗不安薬症例では、60~70%前後は「医師」で、医療機関からの処方と考えられた。鎮痛薬症例では、「医師」「薬局」からの入手が半数前後にみられた。鎮咳薬症例では、薬局からの入手がほとんどであった(表21)。

(13) 覚せい剤初回使用方法 (表22)

性別にみた覚せい剤の初回使用方法については、男女とも「静注」の割合が70~80%と圧倒的に高い割合を示した。ただし、若干ながら「静注」の割合が下降傾向にあり、「吸煙(加熱吸煙)」の割合が漸増しつつある傾向もうかがえる。

(14) 精神医学的状態像 (表23~25)

精神医学的状態像については、1994年度⁹⁾は「急性中毒」および「残遺症候群・残遺性障害」の項目はなく、1996年度¹⁰⁾は「厚生省専門家会議」の診断分類によるもので、個々に存在する状態像についての報告を求めたものであるため、結果的に各状態像とも割合が高くなっている。1998年度以降⁹⁾¹⁰⁾は、ICD-10による主診断の記載を求めている。

覚せい剤症例では、半数前後か「精神病性障害」、1/3程度が「残遺症候群・残遺性障害」で、これらが全体の70~80%を占めていた(表23)。一方、「依存症候群」を主診断とする症例の割合は全体の1/6程度と低かった。

有機溶剤症例では、「依存症候群」の割合が最も高く、「精神病性障害」がこれに次ぎ、両者で全体の約60%を占めていた(表24)。

医薬品症例では、60~70%前後か「依存症候群」で最も高い割合を示していた(表25)。

D 考察

1987年以降施行されてきた本実態調査について共通調査項目を中心に経時的検討を行った。覚せい剤、有機溶剤が主たる使用薬物として最も高い割合を示したか、1993年前後から、覚せい剤の増加傾向、有機溶剤の減少傾向が目立ち始めている。使用歴を有する薬物としても、報告された全症例

の60%前後が覚せい剤としており、医療の現場において覚せい剤乱用が最も大きな問題であることは言を待たない。一方で、有機溶剤は主たる使用薬物としては減少傾向にあるものの、初回使用薬物としては50%前後と覚せい剤を凌いでおり、薬物乱用へのgatewayとしての役割は依然として軽視できない。

覚せい剤症例では、使用開始後1年未満の「初期乱用者」は5%前後とほぼ横ばい乃至は若干の減少傾向がみられたが、5年以上の「長期乱用者」はやや増加傾向がみられた。長期乱用者の増加と症状遷延化傾向については、すでに1991年調査⁹⁾で指摘されているが、この傾向は持続しつつあることか示唆された。

覚せい剤症例の「初回使用の動機」においては、「刺激を求めて」「好奇心」「快感を求めて」の割合が高く、「断り切れずに」「性的効果を求めて」では女性で高い傾向がみられた。「初回使用の契機となった人物」や「入手経路」でも、男性では「同性の友人」や「密売人」が高かったのに対して、女性では「異性パートナー」が高いことか特徴的であった。以上から、覚せい剤乱用の開始に際して、女性において異性パートナーの関与がより強くみられることが示唆された。初回使用方法では、男女とも80%近くか「静注」であったが、「加熱吸煙」の割合も徐々に高くなる傾向がみられた。「主たる状態像」では、覚せい剤症例で「精神障害」が50%前後と高く、「残遺性障害」も約30%とこれに次いで高かったが、「依存症候群」は10%前後と低かった。医療現場では、治療の直接的対象となる病像が、依存症そのものよりも、精神症状、あるいはそれらの症状の長期化・慢性化が中心になっていることか示唆される。

有機溶剤症例では、「初回使用の契機」となった人物として、覚せい剤症例と同様に女性で異性パートナーの割合が高かったが、「同性の友人」では男女差が少なかった。また入手経路では、やはり女性において「異性パートナー」とともに「友人」の割合が高かった。有機溶剤乱用における同性の友人の“peer pressure”の役割の相対的な大きさが示唆された。状態像では、依存症候群、精神障害か1/3程度を占めていた。

大麻は、主たる使用薬物としては1~2%を占めるに過ぎないが、使用歴を有する薬物としては20

%を超えるなど、著明に増加しており、一般社会での乱用の拡大を反映していると考えられる。MDMA等とともに今後の乱用拡大に一層注意が必要であろう。

医薬品症例においては、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬症例では、当初は医薬品本来の薬理効果を求めて医療機関から処方されることが多いか、次第に乱用・依存か進行していく経過が示唆された。状態像としては、依存症候群が2/3前後と高い割合であった。鎮咳薬症例においては男女比、年齢などいくつかの点で規制薬物と類似したプロフィールがみられており、初回使用動機では「遊び型乱用」と自己治療（self-medication）的側面か伺われた。いずれにしても、処方薬の乱用・依存の問題については、投薬する医師側の認識をより高める努力をする必要かあろう。

E 結論

1) 1987年度以降の病院調査について、主に共通した調査項目に関する経時的分析を行った。回答率は概ね50%を超え、病床数からも同程度にカバーしており、全数調査として意義のある調査が施行されていると考えられる。

2) 「覚せい剤」は主たる使用薬物としては50~60%と最も高い割合で漸増傾向にあり、使用歴を有する薬物としても最も高い割合を示した。

3) 「有機溶剤」は主たる使用薬物としては20%前後と減少傾向にあるが、初回使用薬物としては40~50%と覚せい剤よりも最も高い割合を示した。若年層における薬物乱用へのgatewayとしての役割は今なお重要であると考えられた。

4) 「大麻」は、主たる使用薬物としては1~2%を占めるに過ぎないか、使用歴を有する薬物としては20%を超えるなど、著明に増加しており、一般社会での乱用の拡大を反映していると考えられた。

5) 各薬物症例群において、使用期間か1年未満の「初期乱用者」の割合は5%前後で、顕著な変化はみられず概ね横ばいであったか、覚せい剤症例ではやや減少傾向がみられた。

6) 「長期乱用群（薬物使用開始後5年以上経過）」は40~80%を占め、覚せい剤、有機溶剤ではやや増加傾向がみられた。

7) 医薬品症例の多くは依存症候群を呈しており、こうした処方薬の乱用 依存の問題については、

医療者側がより適切に認識する必要かあると考えられた。

F 研究発表

1) 論文 著書

- (1)尾崎 茂 薬物依存症の最近の動向。精神科28(3) 205-212, 2003。
- (2)尾崎 茂 メチルフェニデート関連精神障害。「日本臨床」別冊「精神医学症候群Ⅲ」 522-526, 2003。
- (3)尾崎 茂 有機溶剤依存症の治療に関する提言。臨床精神薬理6(9) 1169-1176, 2003。
- (4)尾崎 茂 薬物乱用・依存の現状－精神科医療施設からみた現状－。こころの科学111 22-27, 2003。
- (5)尾崎 茂 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。精神保健研究49 23-27, 2003。
- (6)尾崎 茂 国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－精神病院からみた現状－。日本アルコール 薬物医学会雑誌39(1) 35-40, 2004。

2) 学会発表

- (1)尾崎 茂 国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－精神病院からみた現状－。第38回日本アルコール・薬物医学会総会，メインシンポジウム1（市民公開講座2）。2003年7月4日，東京。

G 参考文献

- 1) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他 薬物依存の疫学的調査研究（その1）。厚生省精神 神経疾患研究委託費－薬物依存の成因と病態に関する研究。昭和62年度研究報告書 169-182 1988。
- 2) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他 薬物依存の疫学的調査研究－その3。厚生省精神 神経疾患研究委託費－薬物依存の成因と病態に関する研究。平成元年度研究報告書 171-181, 1990。
- 3) 和田 清, 福井 進 薬物依存の発生因をめぐって 精神医学33 633-642, 1991
- 4) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他 薬物乱用 依存の実態と動向に関する研究（その2）－医療施設実態調査より－。厚生省精神・神経疾患研究委託費－薬物依存の発生機序と臨床および治療

に関する研究。平成3年度報告書 143-152, 1992。

- 5) 清水順三郎, 福井 進 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成5年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的, 精神医学的特徴に関する研究。平成5年度研究成果報告書 79-104, 1994。
- 6) 清水順三郎 精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的, 精神医学的特徴に関する研究。平成6年度研究成果報告書 87-118, 1995。
- 7) 尾崎 茂 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成8年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存 中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究。第1分冊「薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究」平成8年度研究成果報告書 61-86, 1997。
- 8) 尾崎 茂, 和田 清, 福井 進 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）薬物乱用 依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究。平成10年度研究報告書 85-116, 1999。
- 9) 尾崎 茂, 和田 清, 福井 進 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成12年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）薬物乱用 依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究。平成12年度研究報告書 77-118, 2001。
- 10) 尾崎 茂, 和田 清 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成14年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業) 薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究。平成14年度研究報告書 87-128, 2003。

表1 調査年度別にみた回答状況

調査年度	総施設数	回答施設数	「症例あり」施設数	回答症例数	「症例なし」施設数	1施設あたり回答症例数
1987	1584	776 (49.0%)	310 (19.6%)	881	466 (29.4%)	2.8
1989	1564	789 (50.4%)	287 (18.4%)	915	502 (32.1%)	3.2
1991	1587	851 (53.6%)	309 (19.5%)	938	542 (34.2%)	3.0
1993	1572	799 (50.8%)	266 (16.9%)	933	533 (33.9%)	3.5
1994	1572	772 (49.1%)	258 (16.4%)	988	514 (32.7%)	3.8
1996	1567	578 (36.9%)	251 (16.0%)	904	327 (20.9%)	3.6
1998	1648	835 (50.7%)	275 (16.7%)	910	560 (34.0%)	3.3
2000	1652	840 (50.8%)	251 (15.2%)	981	589 (35.7%)	3.9
2002	1645	866 (52.6%)	198 (12.0%)	876	668 (40.6%)	4.4
(平均)	1599	790 (49.3%)	267 (16.7%)	925	522 (32.6%)	3.5

表2 施設種別にみた回答状況

	大学病院	民間病院	国立病院	自治体立病院	計
1994(施設数)	79	1262	49	182	1572
回答施設数	58 (73.4%)	587 (46.5%)	30 (61.2%)	97 (53.3%)	772
症例あり施設数	26 (44.8%)	177 (30.2%)	13 (43.3%)	42 (43.3%)	258
該当症例数	53 (5.4%)	609 (61.6%)	181 (18.3%)	145 (14.7%)	988
施設あたり症例数	2.0	3.4	13.9	3.5	3.8
1996(施設数)	84	1291	49	143	1567
回答施設数	38 (45.2%)	457 (35.4%)	25 (51.0%)	58 (40.6%)	578
症例あり施設数	22 (57.9%)	182 (39.8%)	17 (68.0%)	30 (51.7%)	251
該当症例数	53 (5.9%)	531 (58.7%)	167 (18.5%)	153 (16.9%)	904
施設あたり症例数	2.4	2.9	9.8	5.1	3.6
1998(施設数)	83	1374	48	143	1648
回答施設数	66 (79.5%)	639 (46.5%)	35 (72.9%)	95 (66.4%)	835
症例あり施設数	30 (45.5%)	182 (28.5%)	18 (51.4%)	45 (47.4%)	275
該当症例数	60 (6.6%)	551 (60.5%)	110 (12.1%)	189 (20.8%)	910
施設あたり症例数	2.0	3.0	6.1	4.2	3.3
2000(施設数)	83	1374	48	147	1652
回答施設数	50 (60.2%)	658 (47.9%)	32 (66.7%)	100 (68.0%)	840
症例あり施設数	16 (32.0%)	169 (25.7%)	20 (62.5%)	46 (46.0%)	251
該当症例数	53 (5.4%)	592 (60.3%)	106 (10.8%)	230 (23.4%)	981
施設あたり症例数	3.3	3.5	5.3	5.0	3.9
2002(施設数)	84	1366	49	146	1645
回答施設数	39 (46.4%)	719 (52.6%)	31 (63.3%)	77 (52.7%)	866
症例あり施設数	14 (35.9%)	137 (19.1%)	17 (54.8%)	30 (39.0%)	198
該当症例数	32 (3.6%)	466 (53.0%)	183 (20.8%)	198 (22.5%)	879
施設あたり症例数	2.3	3.4	10.8	6.6	4.4

(注) 症例あり施設数(%)=症例あり施設数/回答施設数

表3 主たる使用薬物別症例(%)の推移

(調査年度)	1987	1989	1991	1993	1994	1996	1998	2000	2002
(総症例数)	881	915	938	933	988	904	910	981	876
主たる使用薬物別にみた症例全体に占める割合(%)									
覚せい剤	392	408	353	419	428	563	480	576	550
有機溶剤	342	387	407	339	319	228	255	196	187
睡眠薬	96	55	69	104	109	42	62	58	67
抗不安薬	24	19	27	19	19	14	13	16	19
鎮痛薬	95	70	65	47	44	22	22	27	27
鎮咳薬	34	39	34	44	48	23	27	15	35
大麻	01	08	13	15	13	09	11	07	26
コカイン	—	02	02	03	03	00	00	04	01
その他	15	05	12	05	09	04	15	16	17
多剤(1996～)	—	—	—	—	—	94	114	85	70

(一 当該質問項目なし)

表4 多剤使用症例の内訳

	1996	1998	2000	2002
その他多剤	85例(9.4%)	—	—	—
多剤(医薬品)	—	61例(6.7%)	36例(3.7%)	26例(3.0%)
多剤(規制薬物)	—	43例(4.7%)	47例(4.8%)	35例(4.0%)
計	85例(9.4%)	104例(11.4%)	83例(8.5%)	61例(7.0%)

表5 初回使用薬物

	1996	1998	2000	2002
有機溶剤	53.2%	48.7%	44.0%	46.2%
覚せい剤	32.5%	34.3%	42.6%	30.2%
睡眠薬 抗不安薬	11.0%	15.7%	13.1%	9.0%
大麻	3.9%	4.5%	4.2%	4.4%
鎮痛薬	4.3%	5.0%	4.7%	3.0%
鎮咳薬	2.9%	3.7%	2.8%	2.8%

表6 使用歴のある薬物

	1996	1998	2000	2002
覚せい剤	62.5%	59.2%	67.3%	66.2%
有機溶剤	50.7%	47.5%	43.6%	50.1%
大麻	11.5%	11.4%	9.8%	22.0%
睡眠薬	19.2%	18.4%	16.5%	20.3%
抗不安薬	10.3%	10.8%	9.6%	13.1%
鎮痛薬	9.7%	9.4%	7.7%	8.9%
鎮咳薬	7.1%	7.5%	4.5%	7.5%
コカイン	3.7%	4.4%	3.6%	6.8%
ヘロイン	0.8%	1.7%	1.3%	2.7%

表7 大麻使用症例の推移

	1993	1994	1996	1998	2000	2002
大麻を主たる使用薬物とする症例	15%	13%	09%	11%	07%	25%
大麻使用歴のある症例	5.3%	5.4%	10.7%	11.4%	9.8%	22.0%
全症例数	933	988	904	937	981	878

表8 主たる使用薬物別にみた性比と平均年齢

	1989		1991		1993		1994		1996		1998		2000		2002	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
覚せい剤	81	19	86	14	69	29	74	25	78	21	73	27	76	24	75	26
	277	349	355	286	333	253	360	287	379	296	372	300	376	307	396	312
	290		345		309		340		361		358		359		374	
有機溶剤	81	19	80	20	84	16	84	15	90	9	84	16	83	17	83	17
	404	46.8	236	18.7	256	18.5	263	20.4	293	21.6	303	24.6	294	23.5	317	26.9
	41.7		22.6		24.5		25.4		28.5		28.6		28.4		30.9	
大麻	100	0	83	17	86	14	92	8	75	25	70	30	86	14	100	-
	360	-	261	36.5	35.2	16.0	290	20.0	282	27.7	303	24.0	233	26.0	241	-
	360		27.8		33.3		27.9		28.0		29.0		23.7		24.1	
睡眠薬	63	38	57	43	54	46	56	43	71	29	52	48	46	54	51	49
	194	21.8	42.9	42.2	46.0	43.1	46.6	39.9	43.8	41.0	43.4	37.5	33.1	36.4	40.9	36.9
	20.3		42.6		44.6		43.5		42.5		43.2		34.9		38.9	
抗不安薬	77	24	72	28	72	28	53	47	46	54	29	71	31	69	53	47
	200	27.5	41.8	43.6	40.1	48.2	38.1	39.3	46.5	41.1	41.7	58.3	39.6	35.9	37.8	32.0
	22.1		42.3		42.5		38.7		39.0		40.8		37.1		34.9	
鎮痛薬	48	52	53	48	43	57	70	30	75	25	45	55	54	46	50	50
	144	20.9	45.6	49.8	46.0	44.0	46.0	56.5	44.2	49.5	43.0	42.6	47.2	39.1	49.4	45.6
	17.8		47.7		44.9		49.1		44.8		46.6		43.5		47.4	
鎮咳薬	50	50	59	41	83	17	75	23	76	24	80	20	73	27	74	26
	360	24.9	29.8	30.5	28.5	32.4	30.5	29.9	32.2	31.6	30.8	32.2	34.5	35.5	31.8	27.9
	33.7		30.1		29.2		30.3		32.0		28.5		34.7		30.8	

(上段より 性比(%) 性別平均年齢 全体の平均年齢)